

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.111 2005.2.17

〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15(学)産業能率大学内 日本教育情報学会 運営本部事務局
Tel:03-3704-9168 E-mail:JSEI@hj.sanno.ac.jp <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei>

日本教育情報学会第21回年会 ～発表申込み受付中～ 8月20・21日 滋賀大学 教育学部において開催

本年度の第21回年会は、8月に滋賀大学教育学部を会場に開催いたします。本日、大会の概要と研究発表の応募に関する内容をお知らせいたします。2ページからの要項をご熟読の上、期限内に手続きしていただきますようお願いいたします。多数のご参加とご発表をお待ちしております。

期 日 2005年8月20日(土)・21日(日)

会 場 滋賀大学 教育学部

所在地 〒520-0862 滋賀県大津市平津2-5-1 (077-537-7818)

交 通 JR東海道線「石山駅」(京都駅から13分)下車 バス10分バス停から徒歩7分
http://www.sue.shiga-u.ac.jp/doc/access_1.html

事務局 滋賀大学 教育学部教育実践総合センター内 日本教育情報学会第21回年会実行委員会
〒520-0862 滋賀県大津市平津2-5-1 (077-537-7818)

.....深谷基金教育情報研究プロジェクト審査結果発表.....

昨年の募集いたしました深谷基金教育情報研究プロジェクトには、5件の応募をいただきました。審査委員会において慎重に審議いたしました結果、次の3件を採択いたしましたので、ご報告いたします。
審査委員長 若山皖一郎

荒川 信行(品川区立三木小学校) 他3名 支援金:10万円

「学習アセスメント支援システムの開発-ICTを活用した新しい評価方法」

井上 史子(山口市立川西中学校) 他4名 支援金:20万円

「学生参画型授業モデルの開発に関する実証研究～討議・批判・論理・表現伝達能力の育成～」

成瀬 喜則(富山商船高等専門学校)他7名 支援金:20万円

「ICT活用による日英間交流学習促進プロジェクト」

シンポジウム開催 デジタル・アーキビストの養成

2005年3月6日(日)10:00～16:00

岐阜女子大学文化情報研究センター(岐阜市明徳町10 杉山ビル4階)

参加費:無料

詳しくは、別紙をご覧ください

日 程 （時間は予定）

8月20日(土) 1日目		8月21日(日) 2日目	
9:30	受付開始	9:30	受付開始
10:00~12:00	課題研究発表 一般研究発表	10:00~12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00~13:00	昼食・休憩 (理事会・評議員会)	12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~14:00	総会・学会賞表彰式	13:00~17:00	課題研究発表 一般研究発表
14:00~17:00	シンポジウム (記念講演/パネル討論)		
18:00~	懇親会		

(1) シンポジウム

基調講演 「ユビキタス社会の教育情報を考える」

西之園晴夫 (NPO 法人 学習開発研究所代表, 京都教育大学名誉教授)

[趣旨] ネットワークに接続できる環境は、従来は学校や自宅、公共施設等の固定された場所が多かったのですが、現在では駅のコンコースや喫茶店、移動中の列車の中など、無線LANが整備されて「いつでも、どこでも」インターネットに接続できるユビキタス社会が到来しつつあります。

ユビキタス社会では、いつでもどこでもネットを利用できますから、列車の席を予約したり、本を注文したり、電子図書館や電子博物館を利用すれば、源氏物語や解体新書の全ページを自宅で読むことも可能です。24時間、多様なサービスが展開されています。今回の年会では、e-Japan戦略やバーチャル・エージェンシーで構想されているデジタル・アーカイブを今一度、「ユビキタス社会での教育情報」という観点からその内容、活用、流通方法等の現状と課題を考究したいと思います。基調講演として若者のケイタイ文化は大学や社会にどのような変革をもたらしたかを中心に、ユビキタス社会の教育情報について西之園先生にお話しいただきます。

パネル討論 「デジタル・アーカイブの教育活用の現状と課題」

[コーディネータ] 宮田 仁 (滋賀大学教育学部教授)

[パネリスト] 後藤忠彦 (岐阜女子大学教授)

久保正敏 (国立民族学博物館文化資源研究センター教授)

井上 透 (国立科学博物館展示・情報部情報サービス課長)

[趣旨] 日本にはすでに教育情報として活用できる様々なデジタル・アーカイブが構築されていますが、基調講演を受け、パネル討論では、まず、久保先生に人智・文化・世界遺産の保存と共有を目指した文化資源のデジタル・アーカイブの現状と課題をご紹介いただき、次に、井上先生には国立科学博物館で実施しておられますデジタル・アーカイブをご紹介いただきます。そして、後藤先生には、博物館、図書館、学校が連携して今後取り組む課題であるデジタル・アーキビストの現状と課題を、教育情報の今後の姿と関連させてお話しいただきます。

(2) 課題研究テーマ

課題1 教育情報の流通 コーディネータ 井上 透 (国立科学博物館)

教育用 Web 教材や動画コンテンツをはじめとする様々なデジタル・アーカイブの教育利用が学校や図書館、博物館が連携してはじまっています。これらのデジタル・アーカイブ等の教育情報の流通に関して、現状と課題の報告や提言、教育利用への要望、教育実践での利用報告等、いろいろな観点からの発表を期待しております。

課題2 教育情報の活用 コーディネータ 林 徳治(山口大学教育学部)

小・中・高等学校や大学でデジタル・コンテンツ等の活用による教育方法の改善や授業改善が実践されています。本課題研究では、教育方法の改善にいかに関与したかの研究報告を期待しております。Technology Pushではなく、Educational Demandからの活用の視点を重視した研究報告をお願いします。

課題3 教育情報の内容 コーディネータ 堀口秀嗣(常盤大学)

教育用Web教材や動画コンテンツ等、様々なデジタルアーカイブが学校や図書館、博物館等で利用可能となってきましたが、もう一度、教育用デジタル・コンテンツの内容と評価を再検討し、今、求められている教育情報の内容に関する研究報告をお願いします。

課題4 著作権と情報倫理 コーディネータ 宮田 仁(滋賀大学教育学部)

ネットワークの利活用が盛んとなった現在、デジタル情報の著作権の遵守やネットワーク配信に伴う著作権処理や肖像権、パブリシティ権等、「著作権は人権である」という立場に立った啓発や教育の重要性が指摘されています。著作権と情報倫理に関する授業実践や提言、現状と課題の報告、著作権教育に関わる教材開発等、様々な観点からの研究報告をお願いします。

課題5 特別支援教育と教育情報 コーディネータ 太田容次(滋賀大学教育学部附属養護学校)

教育情報の活用やネットワークの教育利用による特別なニーズを要する児童・生徒への特別支援教育に関する研究発表を広く求めます。アシスティブ・テクノロジー(拡大代替コミュニケーション)による支援機器開発や教材開発、カリキュラム開発や遠隔協同学習等の教育実践報告をお願いします。情報機器ベースではない子どもの真のニーズに応じた教育情報の活用研究をお願いします。

(3) 一般研究発表

- ・発表内容は「教育情報に関する研究」であれば、特に内容は問いません。「教育情報」は、大きくみて「教育に関する情報」と「情報に関する教育」が含まれています。
- ・想定される発表セッション(キーワード)は次の通りです。(五十音順)
- ・応募状況に応じて、7セッション程度を設定する予定です。

インターネット、遠隔教育、遠隔教育システム、学習ソフトウェア開発(教育用ソフトウェア)、学習情報管理システム、学習評価、教育システム、共同学習(遠隔協働学習)、交流学習、授業分析、児童による情報作成、生涯学習、情報教育(カリキュラム論を含む)、情報教育システム、情報教材開発(コンテンツを含む)、情報検索、情報処理教育、データベース、動画教材の開発、ネットワーク(活用、管理、LAN)、プレゼンテーション、ホームページ、マルチメディア(活用、開発等)

(4) 研究発表申込み方法

申込締切 2005年 5月14日(土)

申込方法 課題研究は「課題研究発表申込書」(申込用紙左側)、一般研究は「一般研究発表申込書」(申込用紙右側)に必要な事項をご記入の上、年会実行委員会事務局へ郵送してください。

課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は前記「課題研究テーマ」から選びそのテーマに合った研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、各テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表否となる場合もあることをあらかじめご了承ください。なお、課題研究として発表できない場合には、一般研究を別に申し込んでいても課題研究分を一般研究発表として発表していただくことができる場合もあります。
- ・第1発表者として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・一般研究発表の発表者は、発表の時点で会員である必要があります。非会員の方は、事前に学会入会の手続きをしてください。学会入会申込書は年会事務局にご請求ください。

発表申込書の書き方について

- ・講演者とは、研究発表会場で口頭発表する会員です。
- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく詳細に書いてください。
- ・キーワードとして、前記発表セッション名の中から数語を含めて10語以内を選んでください。
- ・会場で使用できる機器は、プロジェクタ、書画カメラ、OHPです。パソコンは会場で用意できませんので、使用する場合には持参する機器の欄に記入してください。
- ・執筆要項などの送付先は、発表者への連絡時期である5月下旬を想定して、自宅または勤務先にしてください。

(5) 発表者への連絡

発表者には、5月下旬に発表の可否を連絡します。

発表を可とされた申込者に対しては、論文の執筆要項をお送りします。

論文の原稿枚数は2枚または4枚とします。原稿は「年会論文集」の版下の形で、ワープロ出力したものを提出していただきます。

(6) 参加費について

- ・会員事前申込締切日まで
参加費 3,000円 資料代 3,000円 懇親会費 5,000円(予定)
 - ・会員(当日)・非会員
参加費 4,000円 資料代 3,000円 懇親会費 5,000円(予定)
- 参加申込みは、後日送付する「年会参加申込書(兼)参加費振込用紙」(郵便振替)をご利用ください。

(7) 宿泊について

- ・宿泊に関しましては、各自で手配いただきますよう、お願い申し上げます。
- ・次号 Newsletter に、最寄りのホテルをご案内します。

(8) これからのスケジュール(予定)

発表申込締切	2005年5月14日(土)
発表決定通知	2005年5月31日(火)
論文提出締切	2005年7月15日(金)
参加申込締切	2005年8月10日(水)(=参加費支払締切)

発表申込書送付先・問い合わせ先

送付先：〒520-0862 滋賀県大津市平津2-5-1
滋賀大学 教育学部 教育実践総合センター内
日本教育情報学会第21回年会実行委員会
077-537-7818
実行委員長 宮田 仁 (miyata@sue.shiga-u.ac.jp)